

研 究 分 野	生態系保全	部 名	調査普及部
研 究 課 題 名	外来魚被害対策事業		
予 算 区 分	漁業調整費		
試験研究実施年度・研究期間	H10～H20		
担 当	木村 大		
協 力 ・ 分 担 関 係	おいらせ町、小川原湖漁協、東北町		

〈目的〉

内水面の有用魚種等に悪影響を与えるブラックバス等外来魚について、生態調査及び駆除指導等を実施し、漁業や在来生態系の被害軽減及び分布拡大防止を図る。

〈試験研究方法〉

外来魚被害対策事業で外来魚の駆除に取り組んでいるおいらせ町と小川原湖漁協に対し駆除指導を行うとともに、捕獲したオオクチバス、ブルーギルの魚体測定（全長、体重、生殖腺重量、胃内容物等）を行い、時期別体長組成や成熟状況、食性等を把握した。また、七戸町和田ダムや十和田市一本木沢ビオトープにおいて、外来魚の駆除作業に協力した。

〈結果の概要・要約〉

1. 小川原湖

小川原湖漁協では外来魚の駆除のため、定置網等で混獲されたバスの買上を行っており、買上事業(表1)が本格化した平成13、14年には1千尾を越えるバスが捕獲された。その後、捕獲尾数は減少したが、平成19年には急増した。最近のオオクチバスの全長組成(図1)を見ると、平成19年は他の年と異なり5～6cmのバスが姉沼に多く出現しており、上流の溜池や河川からの流入が窺われた。平成20年の捕獲数も多く、地区別全長組成(図2)を見ると、七戸川周辺や姉沼では、8～10月に10cm以下の小型魚が多く捕獲され、湖内で産卵の可能性も考えられ、今後の捕獲状況を注視する必要がある。

オオクチバス雌の生殖腺指数の推移(図3、4)を見ると、個体数は少ないが指数の高い個体が4～5月に見られている。これらはの卵巣は一部透明卵が見られており、産卵期は5月下旬から6月中旬頃と推察された。

2. おいらせ町根岸堤

昨年までは監視員がブルーギルやオオクチバスの駆除を行ってきたが、本年は役場職員による稚魚の捕獲を持網やタモ網で実施した。駆除は8～9月に行われ、2～3cmのブルーギル稚魚が6,300尾捕獲された。

3. その他

9月27日七戸町和田ダムにおいて、七戸川内水面漁協等関係者と刺網によるオオクチバス駆除作業を行ったが、採捕された魚類はイワナ、ウグイであり、オオクチバスは捕獲されなかった。

8月6日十和田市一本木沢ビオトープで池の水を抜き、オオクチバス駆除作業を行ったが、ジュズカケハゼやイバラトミヨ、ゲンゴロウブナは多数見られたが、オオクチバスは捕獲されなかった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表 1 外来魚の買上尾数

年	オオクチバス
平成13年	1,136
平成14年	1,005
平成15年	343
平成16年	716
平成17年	761
平成18年	580
平成19年	1,952
平成20年	1,148

(小川原湖漁協)

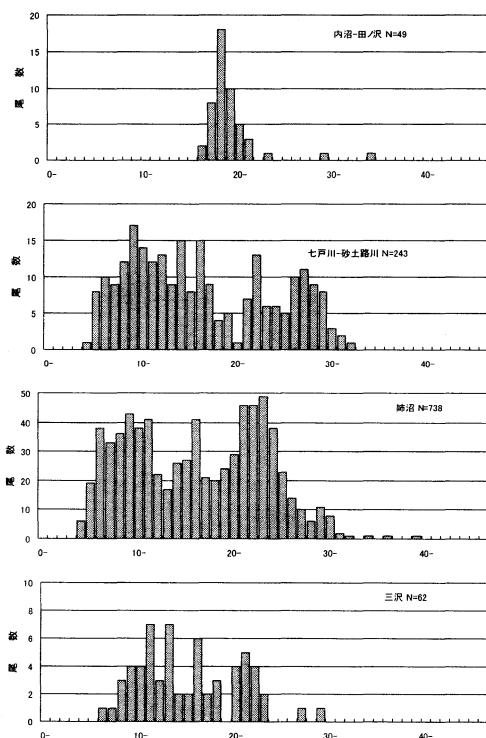


図2 オオクチバス地区別全長組成 (小川原湖、2008)

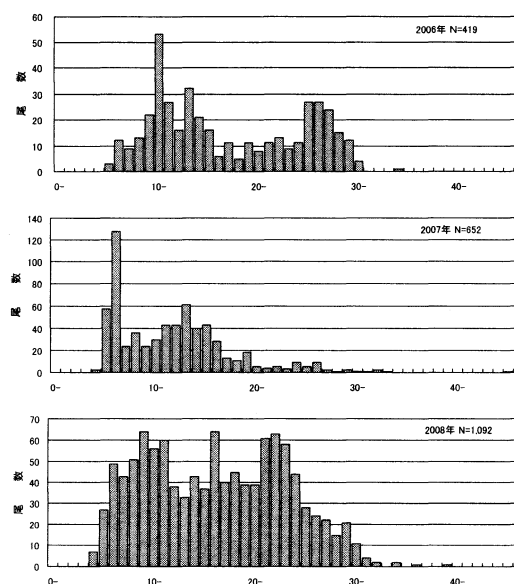


図1 オオクチバス年別全長組成 (小川原湖)

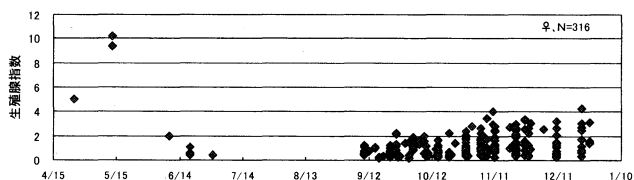


図3 オオクチバス生殖腺指数の推移 (小川原湖、2008)

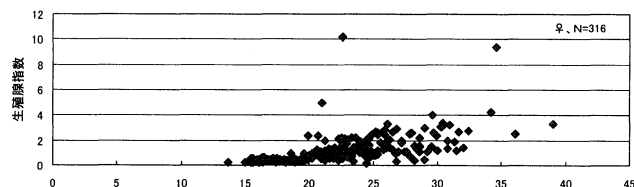


図4 オオクチバスの全長と生殖腺指数の関係 (小川原湖、2008)

〈今後の問題点〉

- ・ 小川原湖：姉沼や七戸川周辺における産卵場の把握と上流域のオオクチバス生息状況の確認。
- ・ おいらせ町根岸堤：効率的で多様な外来魚駆除を行うため、産卵場の把握が必要。

〈次年度の具体的計画〉

事業実施地区への協力、指導を継続して実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

関係者に調査結果を報告する。